

でデータを確実に蓄積



企画開発部・安井氏が語るTRF414

日本のサーキットはアメリカとは違います。だからタミヤではこういった競技専用シャシーは、各地域で同じ物にせず、地域に合わせたものを作りたいです。そのため国内の各ビッグレースに出場し、実戦データを集めて414を完成させました。ですから日本のユーザーが望むもの、欲しい性能がすぐに引き出せるよう設計、製作してあるというわけです。みなさん、このシャシーを使ってレースを存分に楽しんでください。



手探り状態だった404Xのアライメント。それゆえ「マウント穴」はいくつもある



414Xに比べてフロントダンパステーは多少後方に寝かせた状態となる404X



様々な足まわりのセットが試されただけでなく、24時間パーツの耐久性もチェック



24時間耐久仕様のリヤダンパーまわり。アームの取り付け位置が異っている

また414X・24時
スを走ることによ
メカニカルグリン
の耐久性など様々
ことができた

4X 耐久仕様

アリーナで行われたリニエールレース
で前住選手が駆ったマシンでもある



404Xの最大の特徴はホイールベースの長さ。414Xがレースに投入され、開発を追うごとにホイールベースを短く、安定性の確保と旋回性を両立できるようなディメンションが、完成していく。まさにスタート地点のマシン